

令和2年度 第6回オンライン交流



令和3年2月17日(水) 10:00-10:40

今回のオンライン交流は今年度6回目となる。これまで3年生が参加していたが2年生へと交代することになり、それを契機にバンコク側の希望によりスカイプによる交流からラインビデオ通話での交流へと様変わりをした。

ラインビデオ通話による交流では、本校教員やバンコク側とのグループラインを作成する必要があるため、その準備段階で様々な取り決めをするとともに、本校保護者に直接連絡をしてライン使用の承諾を得ながら慎重に進めた。また生徒には、プロフィールの名前はバンコク側から呼びやすいよう、ひらがなや漢字ではなくアルファベットで表記しておくよう伝えた。

一方、ワットスッターラム高校(MSR)側では教員の異動や配置換え等があり、交流担当がノイ先生(Ms.Noï)からモス先生(Mr.Mos)に交代。交流内容については予め目的を決め、それが達成されたかどうか振り返りをしてまた次に備える、ということになった。要は、本校との交流に今まで以上に重点がおかれることになったようで、交流の様子はMSRの広報に掲載されるという。オンライン交流のこうした「深化」は、愛知県庁国際課の力添えにより県内ハブスクール9校がバンコクの高校9校と相互交流をし始めたことによるのが大きいだろう。各学校での取組が公開され評価されるからである。

そう考えると今回の交流は、新年度からの「新しい交流」のプレ。実はMSRからは数回電話連絡があり、特に交流5日前と前日には当日の進行方法や時間配分、スピーカーやマイクの調整など合計約1時間の打合せを行った。

- 1 交流時間帯は本校に合わせる 10:00-10:40(8:00-8:40 in BKK)
- 2 参加生徒数はそれぞれ約6名で、一人ずつ挨拶(当日はMSR教員6名の挨拶もあった)
- 3 トピックは 自己紹介、将来の職業、趣味等
- 4 MSR側から、タイの文化や食べ物などを軽く紹介



事前のシステムチェックのおかげで映像が乱れたり、音声途切れたりすることはなかったが、一斉に話し出すわけにもいかずお互いに戸惑いは隠せず無言になることもあった。例えば、声と顔が一致していれば画面をスムーズに切り替えることはできるのだろうが初対面ではそれは難しい。最終的には、それぞれが一つのカメラをメインにして話すことになった。では一つのカメラだけでいいのかというところでもない。参加者それぞれがスマートフォンを手にしながら、話している相手を見ることは、「大画面の一人ではなく自分が選んだ一人」という扱いになる利点はある。この点については、効果的な交流になるようMSR側とさらにつめていきたい。

今回の交流は時間が短く、生徒たちは準備してきたことをすべて話せたわけではなかった。しかしMSRの交流担当Mos先生からはオンライン交流に対する並々ならぬ熱意が感じられた。当日の交流が終わって3時間ほどしたところで早くも右のようなレポートが送られてきたのには驚いた。You are a fast worker. と思わず返信をしてしまった。

วาระสารประชาสัมพันธ์
กลุ่มสาระการเรียนรู้ภาษาต่างประเทศ โรงเรียนมัธยมวัดศุขาราม
สำนักงานเขตคลองสาน กรุงเทพมหานคร
วันพุธ ที่ 17 กุมภาพันธ์ 2564

กิจกรรมการแลกเปลี่ยนทางภาษา
กับโรงเรียนมัธยมทชชีวมะ จังหวัดไอจิ
ประเทศญี่ปุ่น

กลุ่มสาระการเรียนรู้ภาษาต่างประเทศ โรงเรียนมัธยมวัดศุขาราม
นำโดย นางสาวณิชา บินดาลตัน รองผู้อำนวยการสถานศึกษา นำคณะครู นักเรียน
แลกเปลี่ยนความรู้ วัฒนธรรม ทางภาษาอังกฤษ กับโรงเรียนมัธยมทชชีวมะ จังหวัดไอจิ
ประเทศญี่ปุ่น

เพื่อพัฒนาทักษะการสื่อสารภาษาอังกฤษสำหรับประเทศไทยใช้ภาษาอังกฤษเป็นภาษาที่
สองและเรียนรู้วัฒนธรรมผ่านระบบออนไลน์

www.facebook.com/กลุ่มสาระการเรียนรู้ภาษาต่างประเทศโรงเรียนมัธยมวัดศุขาราม